



2月の主な行事

1日 :	テレビ放送記念日	9日 :	肉の日、福の日
3日 :	節分	11日 :	建国記念の日
4日 :	立春	14日 :	バレンタインデー
7日 :	北方領土の日	20日 :	歌舞伎の日



大きな安心を
スピーディーにお届けする
＜取扱代理店＞
株式会社コスモほけんサービス
代表 田澤 淑秋
九戸郡軽米町軽米8-79-2
TEL 0195-46-4023
二戸市福岡字下町8
TEL 0195-43-3733

今月のかから版 : 1 「春の初日“立春”」

立春は、冬至と春分の間の2月4日頃に当たります。また、この日から雨水(2月19日頃)までの期間を立春と呼ぶこともあります。立春は冬と春の分かれる節目の日である「節分」の翌日で「寒さがあけて春に入る日」いわば春の初日です。

一年の始まりは立春から

旧暦では一年のはじまりは立春からと考えられていたため、立春を基準に様々な決まりや節目の日が存在しています。

- 春...立春から立夏の前日までを言います。冬至と春分の中間にあたります。この頃、暖かい地方では梅の花が咲き始めます。
- 節分...立春の前日のことです。立春が正月なのに対して、大晦日の役割を持ち、一年間の厄払いのために豆まきを行います。
- 八十八夜...立春から数えて88日目のことです。この日に摘んだお茶の葉は霜をかぶらないため、高級な茶葉であると言われています。
- 二百十日...立春から数えて210日目のことです。この日は台風が襲来する可能性が高く、農家の人々にとっては厄日だと言われています。

- 二百二十日...立春から220日目のことです。二百十日と同じく、台風が襲来する可能性の高い日とされています。現在は二百十日よりも二百二十日に台風が来ることのほうが多いようです。

立春と正月

古来は、自然の景色の変化から季節の移り変りを把握する「自然暦」を使用していました。飛鳥時代に中国から二十四節気が伝えられると、冬至が年の分割の起点と考えるようになり、立春を一年の初めとして暦が作成されるようになりました。

明治時代に改暦が行われるまでは、立春は正月とほぼ同じ頃に重なっていたため、現代でも正月に「早春」や「新春」といいます。

「立春大吉」で厄祓い

立春の早朝、禅寺では厄除けのために門に「立春大吉」と書いた紙を貼る習慣があります。この文字は、縦書きすると左右対称になり一年間災難にあわないというおまじないです。

今月のかから版 : 2 「地球温暖化の現状と問題点を改めて認識し、CO2削減に努めましょう」

地球温暖化は確実に進んでいます。2013年の世界の平均気温は基準値(1981年～2010年の30年間の平均値)に比べて0.20度高く、統計を開始した1891年以降で2番目に高い値となる見込みです。また、世界の年平均気温は長期的には100年あたりで0.69度の割合で上昇しており、1990年代半ば以降、高温となる年が多くなっています(気象庁資料)。

この地球温暖化の問題に対処するため、大気中の二酸化炭素等の温室効果ガスの濃度を安定させ、現在の気候を将来的に維持していくことを目的として、1994年に「気候変動に関する国際連合枠組条約」が発効しました。2013年11月に第19回締約国会議(COP19)がポーランドで開催され、その中でわが国は、2020年のCO2等の削減目標を2005年比3.8%とすることを発表しました。

地球温暖化は、大気中に排出された二酸化炭素等の温室効果ガスにより、地球の温度が上昇することですが、その結果、氷河が後退し、世界各地で大雨、干ばつ、熱波などの異常気象が頻発し、これにより甚大な被害が生じます。海面上昇により島が水没し、南太平洋に位置するツバルなどは、国全体として海面上昇の影響を受けると言われています。

地球温暖化の影響はこのように気象変動をもたらし、自然災害を増加させるにとどまらず、生物・生態系に大きな影響を与え、その結果私たちの生活にも大きな影響を及ぼします。身近なところでは私たちの主食である米への影響が懸念されます。収穫が増加する地域がある一方で、対策を講じなければ収穫量や品質が低下する地域もあると予想されています。また、感染症を媒介する生物の分布域が拡大することにより、感染リスクが高まると考えられています。温度上昇を受容できない生物は、その場所で温度上昇に適用できるよう進化するか、生息できる場所に移動しないと、絶滅することになります。予想される温暖化の速度は生物の持つ適応力に比べて非常に速く、生物の力だけでは対応が困難になると言われています。気候変動に関する政府間パネルの第4次評価報告書によると、地球全体の平均気温が1.5度～2.5度を超えて上昇すると、約20%～30%の動植物種の絶滅リスクが高まると予測されています。

このようなリスクをもたらす地球温暖化を防止するために、私たちは自らができることを行う必要があります。節電等の省エネ対策、環境省が提唱しているウォームピス・ウォームシェア(暖房を消して暖かい場所に集まろう)などが有効な対応策となります。また、地産地消も環境への負荷を削減するのに有効です。地元の産物を消費すれば、輸送にかかるエネルギー、保存に必要なエネルギーも少なくて済みます。皆さまも試してみたいはいかがでしょうか。